

5年生「提言Ⅰ」SGH上海研修の事前学習～skypeでの交流～

実施報告

日時：2016年6月13日（月）

場所：広島大学附属福山中高等学校内情報教育棟 セミナー室

参加者：生徒10名，教員3名

実施内容

上海大同中学での実地研修に向けた事前学習の一環で、スカイプを介した直接交流を実施しました。コンタクトパートナー同士は、これまでも数回メールで日程調整を行い、6月9日（木）にスカイプの動作確認を行うためのテストも行っていたので、当日はスムーズに実施できました。生徒たちは1時間前にセミナー室へ入り、何度もリハーサルを繰り返して準備を進めました。また、相手に分かりやすく伝える工夫として、紙に名前とニックネームを書くなど、直前まで工夫を凝らしていました。



日本時間の17:00（上海時間16:00）からスカイプの交流が始まりました。10分前に授業が済んだばかりの上海の生徒を気遣い、附属福山の生徒から自己紹介と班の研究紹介を英語で行いました。大同中学の生徒は、身を乗り出して英語を聞き取り、拍手や歓声があげて反応を返してくれました。その姿を映像で見てやりとりを続けていくうちに、少しずつ生徒の緊張がほぐれてきたように思えました。

スカイプを使ったテレビ会議を終えた生徒からは、「最初はとても緊張していた。しかし、スカイプで実際に顔を見て中国の生徒とコミュニケーションをとる機会を持てたことで、非常に安心できたし、やる気がでた。それに相手の英語のレベルが高かったのも、自分たちもそれに近づくように努力したいと意欲があがった。」「スカイプの前は英語のレベルの差を気にしていて、会話が伝わるか不安だった。しかし、実際に交流をすると意外と相手の英語が分かったのも、やってよかったと思った。しかし、こちら側（日本）の方があまり積極的に話せなかったのも、もっと主張した方がいいと思った。」「フリートークになった際に、何を質問したらいいかが浮かばなかった。テーマが浮かべば何とか英語にして次に進めたけれど、テーマを考えて話す場面だったので、うまく対応できなかった。」との感想を述べていました。生徒たちは、上海で行う調査および研究内容について、



事前準備をし、英語の内容も十分吟味ができていたため、どのグループも臆することなく堂々と説明することができていました。しかし、感想にもあるように、その場でテーマを決めて話をする場面では、あまりうまく対応できなかったと感じています。実際の会話には時として臨機応変に物事に対応する力が必要です。それこそがまさに実践的な場で求められる力です。しかしながら、上海での実地研修に向けて意欲が高まり、やる気がでたこと、新たな目標設定ができたことをとっっても、スカイプによる事前学習は生徒たちにとって有意義な時間になりました。